

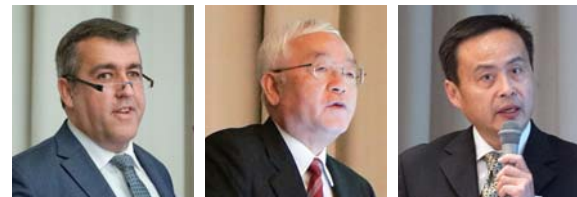
図書館創設100周年記念国際シンポジウムを開催

電子化時代に対応した図書館の未来を考える

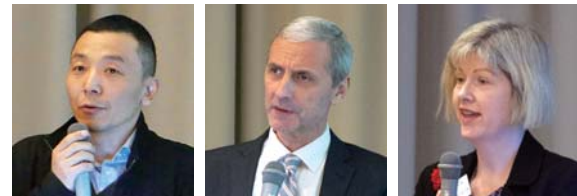


Libraries in the Digital World

▼シンポジウム・ゲストスピーカー



Jo Rademakers 氏 大滝 則忠 氏 Peter X.Zhou 氏



黄 農 氏 Peter E.Sidorko 氏 Anne Jarvis 氏

関西大学図書館は2014年、記念すべき創設100周年を迎えた。この節目を迎えるにあたり、11月8日、図書館創設100周年記念国際シンポジウム「Libraries in the Digital World」が千里山キャンパス100周年記念会館大ホールにおいて開催された。テーマは『図書館電子化時代と今後の図書館のあり方』。各国から主要な図書館関係者が集結し、KUルーベン図書館ITサービス責任者のJo Rademakers氏の祝辞により幕を開けた。



内田 慶市 教授

シンポジウムの基調講演は、「日本図書館界の将来展望—国立国会図書館の役割から—」と題して国立国会図書館館長の大滝則忠氏により行われた。引き続き、本学図書館長の内田慶市教授による「日本における図書館の電子化の状況」の発表を皮切りに、カリフォルニア大学パークレイ校副図書館長のPeter X.Zhou氏、浙江大学副図書館長の黄農氏、香港大学図書館長のPeter E.Sidorko氏、ケンブ

リッジ大学図書館長のAnne Jarvis氏が、順に自国図書館のデジタル化に関する発表を行った。

その後は、各国の関係者に日本文化に触れてもらおうと、文化会邦楽部・吟詩部・茶道部の学生達によるプレゼンテーションが行われ、会場は和やかな雰囲気に包まれた。

また、全体会では、情報量の急激な増加や複雑多岐にわたるデータ処理に対する今後の見通しについて、会場からの質問に答える形で、デジタル化すべき資料の優先順位やデジタル資料収集にまつわる法的準備、デジタル資料が持つ権利と図書館貸出冊数の問題など、各国の著作権の及ぶ法的範囲と絡めて、現状と課題についての討議が行われた。更に、図書館とアーカイブの世界的な統合、紙媒体の保存・共有管理といったシェアード・プリント導入の可能性についても意見が交わされ、経費やスペースの問題を踏まえた今後の図書館の方向性について、それぞれの考えや施策案など、活発な議論が展開された。

当日は、大学図書館関係や一般から約130人が来場し、デジタル化時代の図書館モデルの進むべき方向について、熱心に耳を傾けた。



宇宙でも耐え得る新型蓄電池の実用化に向けて 世界初！「イオン液体リチウム二次電池」が 地球周回軌道上での充放電に成功



ほどよし3号機技術実証モジュールに搭載された石川教授らが開発したイオン液体リチウム二次電池



▲人工衛星「ほどよし3号機」

化学生命工学部の石川正司教授と山縣雅紀准教授が開発した「イオン液体リチウム二次電池」が、地球周回軌道上での充放電試験にイオン液体電池として、世界で初めて成功した。

イオン液体リチウム二次電池は、石川教授が2006年に初めてイオン液体利用の可能性を示した設計を基に、山縣准教授、第一工業製薬株式会社、エレクセル株式会社と研究を開始し、超真空、高放射線という極限環境の宇宙でも耐えられる新型蓄電池として開発した。通常の電解液の代わりに「イオン液体」を用いることで、揮発・引火成分を排除し、これまでの宇宙用電池のように堅固な外装を一切必要としない、薄く、軽く、コンパクトな形状を実現した。

2014年6月には、東京大学が開発した人工衛星「ほどよし3号」に搭載し打ち上げられ、8月

には世界で初めてイオン液体電池として軌道上での充放電に成功。10月には長時間の充放電試験にも成功した。これらの実験データから、長期の宇宙滞在にもかかわらず、環境の影響による劣化はほとんどなく、地上に温存した同型の電池と全く変わらない性能を持つということが明らかになった。

この結果はさまざまな講演会や学会で報告され、電池研究開発者や宇宙運用機開発者から大きな反響を呼び、米国の宇宙・航空開発者からも高い関心を集めている。現在は、軌道上の滞在約8カ月を順調に迎えており、東京大学に加え、JAXA、石川教授のベンチャー会社であるアイ・エレクトロライトが性能解析と更なる開発を継続している。今後、宇宙・航空などの極限環境で安全で信頼性の高い蓄電池として適用の促進が期待されている。

特別展 勇気と感動をありがとう！ 高橋大輔さん



関西大学では、2014年12月1日～1月17日まで、千里山キャンパス・関西大学博物館常設展示室において、世界に誇るトップフィギュアスケーター、体育会アイススケート部の高橋大輔さん(文学研究科M2生)の特別展「勇気と感動をありがとう！高橋大輔さん」を開催した。

会場には、高橋さんのフィギュアスケートにおける功績を紹介するとともに、実際に大会で着用した衣装6点を展示。また、日本男子フィギュア初となる2010年のバンクーバーオリンピックで獲得した銅メダルや2010年世界選手権で獲得した金メダルなど、来場者は貴重な品々に見入っていた。大学関係者や遠方からの一般のファンの方々も多く来訪し、来場者延数は4376人にも上った。

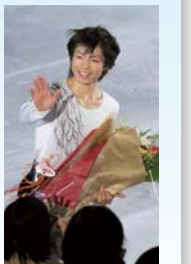
全日本フィギュアスケート選手権 宮原知子さんが金メダル 町田樹さんが4位



宮原知子さん(撮影：今永)

2014年12月25から28日、長野県長野市ビッグハットで開催された「第83回全日本フィギュアスケート選手権大会」に、宮原知子さん(高等部2年生)が金メダルを獲得。SP2位で迎えたフリーでは、『ミス・サイゴン』の曲に乗って伸びやかな滑りを見せ、終盤の高難度ジャンプも見事にクリアし、逆転優勝を果たした。この結果、3月23日から中国・上海で開催される「世界フィギュアスケート選手権大会」の切符を手に入

れ、さらなる活躍を誓った。男子では体育会アイススケート部の町田樹さん(文4)が出場し、総合4位の成績を収めた。SP2位から王座を目指して演じたベートーベンの『交響曲第9番』に、「失敗はあったが、すべてを込めた。悔いはない」と言い切った。その後、町田さんは現役引退を表明。3月に開催される世界選手権への出場を辞退し、多くのファンに惜しまれる中、29日のエキシビションで持ち味の情感溢れる滑りを披露し、有終の美を飾った。



町田 樹さん